

(様式2) 【発表要旨】

＜発表者＞ 指導区名：始良・伊佐指導区 氏名：上敷領 芳広

1 発表テーマ

始良・伊佐地域における森林整備に係る労務対策の取組

2 テーマの趣旨・目的 ＜取組課題選定の背景含む＞

始良・伊佐地域の森林面積（69,652ha）の約61%（42,778ha）がスギ・ヒノキの人工林で、そのうち利用可能な7齢級以上が91%（39,087ha）を占め、県内他地域と同様、本格的な利用期を迎えている。

こうした状況を背景に、木材生産の形態も間伐から主伐に移行していることから、人工造林面積が急激に増加するとともに、下刈面積も大幅に増加して、5年前の2倍を超える1千ha近くになっている。

一方で、林業就業者数は当管内では漸増しているが、急激に増加する人工造林等の森林整備面積の伸び率には到底追いついていないことから、労働力の確保と生産性の向上に向けた取組が必要と考えている。

こうした課題を解決するため、「事業体連携による労務のマッチング」や「労務の省力化と安全管理体制づくりによる生産性向上」に取り組んだので報告する。

3 現状及びこれまでの取組の成果・課題

① 現状

ア 労務のミスマッチ

労務が不足している事業体がある一方で、森林整備の請負事業量が安定していない事業体があるなど、労務のミスマッチが生じている。

イ 労務の省力化・安全対策の共有不足

省力化や安全対策の取組が各事業体で留まっており、情報共有不足から地域全体としての技術革新に繋がっていない。

② 成果（目標数値等を定めた場合は、その成果を含む）

ア 労務のミスマッチ

県外を含めた林業事業体152社へ労務提供の可否等に関するアンケートを実施。うち19社から協力可能との回答があり、2事例の労務提携が実現した。

イ 労務の省力化・安全対策の共有不足

管内事業体の省力化や安全対策に向けた取組事例を収集し、各社での改善対策の参考となるよう情報を共有した。

また、急増する下刈の省力化を図るため、バックホウに取り付ける4種類のアタッチメントや2種類のリモコン式下刈機の実演及び操作研修を実施した。

③ 課題

ア 労務のミスマッチ

一部で労務提携が実現したが、連携を更に進めるためには、相手の事業体の

施工管理体制や信用度等を把握できる仕組みを確立し、連携に対する不安感等を払拭する必要がある。

イ 労働生産性の低さ

各事業体の取組事例について情報を共有したが、更に紹介事例を充実させるとともに勉強会等も行い、更に取り組みやすくする必要がある。

4 今後取り組むべき内容

① 具体的手法又は検討方向

ア 労務のミスマッチ

- ・ 労務募集者と労務提供者の顔合わせ会を実施する。
- ・ 労務のマッチングをリアルタイムで可能にするスマホアプリの開発・運用を進める。

イ 労務の省力化・安全対策の共有不足

- ・ 取組事例の拡充に加え、実演研修も行い技術革新の具現化を推進する。

② 理由

ア 労務のミスマッチ

- ・ 相手事業体の実態が分からなければ連携しにくいという意見があるとともに、都度連絡する手間を省き、簡便に労務連携事業体を探したいとの要望があったため。

イ 労務の省力化・安全対策の共有不足

- ・ 前回、実施した研修内容の拡充を求める要望があったため。

③ 期待する成果（目標数値等を定めた場合は、その内容を含む）

ア 労務のミスマッチ

顔合わせ会の開催により新たな事業体間連携の推進が期待できる。

スマホアプリの本格運用によって、労務マッチングがより円滑になり、事業体連携が一層促進されることが期待できる。

イ 労務の省力化・安全対策の共有不足

各事業体の労務対策や安全対策に関する取り組みが広く普及されることで、事業体全体のレベル向上につながり、労務の省力化と安全管理体制づくりによる生産性向上に寄与することが期待できる。

